

# 日本木材学会 R&D ツアーセミナー開催報告

## 「製材は森と住まいづくりのかなめ ー生まれ変わる製材業ー」

独立行政法人森林総合研究所 青木謙治

### 1. はじめに

2008年10月29日(水)と30日(木)の2日間、栃木県宇都宮市を中心に、日本木材学会主催のR&D ツアーセミナーが開催されました。本報告では、シンポジウムと見学ツアーの内容を、配布資料や写真を元に簡単に紹介いたします。

### 2. 今回の企画について

今回のR&D ツアーを企画するにあたり、事業委員会傘下に企画小委員会を組織し、7名の委員で企画の検討を行いました。いくつかの見学候補地が挙がりましたが、シンポジウムのテーマとの関係や開催時期などを考慮した結果、今回の見学ツアーは「栃木・福島の製材工場巡り」に絞り、他の学協会行事の予定を考え、10月下旬に開催する事としました。

今回、「製材」を対象としたツアーを企画したのは、次のような理由によります。

- (1)製材品としての木材利用は、古くから我が国の森林を育み、また住まいの安全を守る大きな支えとなっている。
- (2)最近、建築基準法の改正など、社会の要求や川下の施策が大きく変化するなかで、製材品の生産・供給体制、乾燥材の品質や表示のあり方など、改めて製材業の将来を問う声が聞かれるようになった。

社会情勢が大きく変化する中で、木造住宅と切っても切れない関係である製材業界が今後どう変わっていくのか、問題点はどこにあるのか等々、先進的な工場の見学と共に考えて頂こうという意図で企画が立てられた訳です。

### 3. 木材利用シンポジウム ー製材を森と住まいづくりのかなめとするために

10月29日(水)の午後、栃木県総合文化センターにおいて初日のシンポジウムが開催されました。日本森林学会や日本木材加工技術協会など、

多数の関係学協会に協賛を頂き、会告の掲載や会員への情報提供等をして頂いたお陰で、シンポジウムには全国各地から66名もの方々にご参加頂くことができました。



写真1 開会挨拶を述べる祖父江事業委員長



図1 配付資料の表紙

以下、プログラムに従って講演内容を簡単に振り返ってみることにします。

### 3.1 基調講演

#### 木造住宅にかかわる最近の行政施策

国土交通省住宅生産課：浦口恭直氏

基調講演として、浦口氏に国土交通省関係の行政施策（特に木造住宅に関係するもの）について概要をご講演頂きました。

我が国の住宅事情や人口の推移から見た今後の住宅事情予測や、住生活基本法における木造住宅関連記述の説明、超長期住宅関連施策と先導的モデル事業の解説、木造住宅振興施策や瑕疵担保履行法の概略説明と、非常に多くの情報を提供して頂きました。講演時間が1時間と短かったために、多少駆け足の説明にならざるを得なかった部分がありますが、限られた時間内で非常に有益な情報を提供して頂きました。



写真2 基調講演をする浦口氏

ここで休憩をはさみ、パネルディスカッションへと続きました。司会は秋田県立大学木材高度加工研究所の飯島泰男氏にお願いし、まずは3件の報告から始まりました。

### 3.2 報告①：住宅建築の現場から

#### －住宅品質保証と製材利用－

(株)一条工務店：平野茂氏

平野氏は、住宅メーカーの立場から製材に求める品質について講演して頂きました。

建築物の性能規定化や品確法の施行等により、木造住宅においても品質や性能を明確にすることが求められているため、製材等の材料の品質に対しても自社基準を設けて厳しく検査しているとのことでした。また、住宅という商品売る企業で

ある以上、「最終的には“お客様のために”という姿勢を忘れないことが大事だ」という点を強調されていました。

### 3.3 報告②：林野行政の立場から

#### －川上と川下をつなぐ新生産システム－

林野庁木材産業課：武田義昭氏

武田氏には、林野庁が実施している木材関連施策についてご講演頂きました。

国内林業の活性化を目指した新生産システムの概要と現在の状況、推進実績等をわかりやすく解説して頂きました。地域によっては当初目標を既に達成可能な程の実績を積んでいるところもあるようで、今後の国産材安定供給へ向けて成果が出始めていることが伺えました。また、木材の新しい総合利用システムを確立する対策（新総合利用システム）についても説明して頂きました。

### 3.4 報告③：製材工場の立場から

#### －製材業はこのように展開する－

(株)トーセン：東泉清寿氏

東泉氏には、自社が展開する母船式木流システムとウッドロード構想についてお話し頂きました。

極力施設投資をせず、既存の建物や設備を活かして中小製材工場をフランチャイズ化し、乾燥・加工工場（母船）との連携を図って北関東一円の国産製材供給体制を構築しているというお話でしたが、国内の製材業界が苦しい状況にある中で、今後の一つの方向性を指し示す、興味深い内容でした。

### 3.5 総合討論

最後に総合討論ですが、基調講演の浦口氏も加わり、飯島氏の素晴らしい進行の元で4人のパネリストと共に討論が進められました。パネリストの方々の本音を引き出しながら、今後の製材業界のあるべき姿、方向性を探ると共に、住宅メーカーに対する意見、国土交通省や林野庁の施策に対する要望など、様々な意見が出され、充実した討論となりました。会場の都合もあり、途中で打ち切らざるを得なかったのは非常に残念で、続きは夕刻の交流会へと持ち越されました。



写真3 総合討論の様子

#### 4. 製材工場バスツアー

翌日の10月30日(木)には、栃木県矢板市と福島県東白川郡を巡るバスツアーが行われました。非常に多くの申込みを頂き、総勢48名でバス2台に分乗してのツアーとなりました。以下、見学ルートに沿って簡単に紹介します。

##### 4.1 株式会社トーセン

まず始めに、前日のシンポジウムでも講演して頂いた東泉氏が社長を務める株式会社トーセンを訪れました(写真4)。昭和39年創業で、現在は直営・提携含め16工場を統括する国産材製材専門工場です。今回見学したのは、KD物流センター、KD加工センターの2箇所で、どちらも以前は全く別の業種の工場だったところを、上屋などを残したまま買い取って再利用しているとのことでした(写真5)。また、木屑焚きボイラーには参加者の皆さんが一番興味を持たれたようで、メモを取りつつ盛んに写真を撮っていました(写真6)。



写真4 東泉社長の話に聞き入る参加者

また、短尺材等をフィンガー加工・縦継ぎして間柱にするなど、貴重な資源を無駄にせず使い切る姿勢が感じられました(写真7)。



写真5 既存上屋を活かした倉庫



写真6 木屑焚きボイラー



写真7 短尺材を縦継ぎした間柱

##### 4.2 JR磐城塙駅

次に、東北道白河ICを経由して福島県東白川郡にあるJR磐城塙駅を目指しました。この駅舎は唐傘が連結したような形(写真8)をしています

が、駅舎のみならず町立図書館や展示スペースをも併設した埜町のランドマーク的な建物です。ベイマツ集成材と構造用合板を使った建物で、1996年3月竣工しました。海外の雑誌で紹介されたこともあるため、外国人を始め、来訪者は多いようです。参加者の方々も、秋晴れで快晴の空を背景に、様々なアングルからこの不思議な駅舎を撮影していました。(写真9, 10, 11)。



写真8 JR 埜城駅全景



写真9 大きな庇に収まったホーム



写真10 駅舎上部の構造



写真11 併設の図書館内部

#### 4.3 協和木材株式会社

東の間の昼食の後、最後の見学先である協和木材株式会社を訪れました(写真12)。社長自ら出迎えて頂き、15haという広大な敷地をぐるりとまわりながら、一通りの施設を見学させて頂きました。やはり国内随一の生産量を誇るだけあって、土場に転がる原木や天然乾燥中のスギ正角材の量には圧倒されるものがあります(写真13, 14)。

最後には工場内部を見渡せる展望会議室にて質疑応答を行い、国内随一の生産量を誇る協和木材の目指すところ、今後の展望などをお話し頂き、帰路につきました(写真15)。

余談になりますが、製材のJASが普及しないという声を良く聞きます。色々と理由はあるのですが、この協和木材ではJASマーク付きの製材を普通に見ることができるのです(写真16)。筆



写真12 佐川社長の説明を聞く参加者

者が普段の実験で使う試験体として納品される製材も、この協和木材製のものが多いたのですが、少しずつではあるものの、こうして着実にJAS製材が増えていくことは嬉しい事です。



写真 13 広大な敷地に積まれた原木の山



写真 14 堆く積まれたスギ正角材



写真 15 展望会議室での質疑応答



写真 16 未だに珍しいJASマーク付製材

## 5. 終わりに

以上、今回の日本木材学会 R&D ツアーセミナーは盛況のうちに2日間の行程を終えました。幸い天気にも恵まれ、まだ紅葉には若干早かったものの、八溝山系を遠目に眺めながらのツアーを満喫していただけたのではないかと思います。ご参加頂いた方々には概ね好評だったようで、主催した側としては大成功と言えるツアーセミナーでした。

最後に、同業関係者の参加者が多い中、快く施設見学に応じて下さった株式会社トーセンと協和木材株式会社には、この場を借りて心より御礼申し上げます。